

## ▼ボラキス錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 オキシブチニン塩酸塩 (U) Oxybutynin Hydrochloride 【分類】 尿失禁・尿意切迫・頻尿治療剤

【単位】 ▼3mg/錠

【常用量】 6～9mg/日 [抗ムスカリン作用による副作用発現頻度が高いため、低用量から漸増]

【用法】 分3

【透析患者への投与方法】 重篤な腎疾患のある患者には慎重投与となっているが尿中未変化体排泄率が低いため減量の必要はないと思われる (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 重篤な腎疾患のある患者には慎重投与となっているが尿中未変化体排泄率が低いため減量の必要はないと思われる (5)

【特徴】 抗ムスカリン作用 (M1, M3 選択性) に加え、膀胱平滑筋直接弛緩作用と麻痺作用により、膀胱の過緊張状態を抑制する。二分脊椎において多用。神経因性膀胱、不安定膀胱 (支配神経には障害がない) にも関わらず、膀胱が不随意の収縮を繰り返す状態による頻尿、尿意切迫感、尿失禁の症状を改善。抗コリン作用が比較的強く、低用量から開始。BBB を通過するため認知障害などの中枢性副作用に注意。

【主な副作用・毒性】 口渇、排尿困難、便秘、胃部不快感、味覚異常、血小板減少、麻痺性イレウス、眼のかすみなど

【モニターすべき項目】 シストメトリー (膀胱内圧測定)

【吸収】 急速に胃腸管から吸収され、ほぼ 100% (U, 11)

【F】 初回通過効果を受け 0.06% (11)

【tmax】 0.7hr (1) 0.5～1hr (11)

【代謝】 肝 (U) 代謝の個体差は大きい。主代謝物 desethyl 体 (DEO) の活性が親薬物と同等なため、薬効に影響しない。その他の代謝物は活性なし (11) CYP3A で代謝 (1) DEO の AUC は未変化体の 19 倍 (Lukkari E, et al: Eur J Clin Pharmacol 1998 PMID: 9516036)

【排泄】 主に腎 (U) 糞 (代謝物 23%) 腎 (未変化体はわずか・代謝物 8%) (11)

【t1/2】 0.84～2.9hr (11)

【蛋白結合率】 83～85% (11)

【Vd】 193L/man (U) 中枢移行し、中枢神経系への影響が出現するおそれがあるので、高齢者では慎重に使用 (5)

【MW】 393.95

【透析性】 透析性は低いと思われる (5)

【TDM のポイント】 TDM の対象にならない 【pKa】 6.4 (1)

【効果発現時間】 30min～1hr (U) 【最大効果発現時間】 3～6hr (U)

【効果持続時間】 6～10hr (鎮痙作用) (U)

【更新日】 20220823

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。